

THE CHEMICAL DAILY

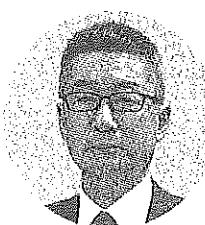
2022年(令和4年)

7月14日 木曜日

第24816号(日刊、土・日・祝日除く)

# 化学工業日報

## 川瀬産業



川瀬社長

川瀬産業は、使用するプラスチック容器(ポリ容器・ポリドラム・ポリタンク)のさらなる回収拡大とりサイクルを推進、持続可能な社会に貢献していく。同社は主に化学業界から発生する使用済みポリエチレン(P-E)やポリプロピレン(P-P)をメインに、プラスチックのマテリアルリサイクルを実施。最大の特徴が化学を熟知する視点から再資源化を行っている点だ。独自の排水処理設備を完備し、マテリアルリサイクルが困難な薬剤付着容器なども洗净・粉碎し、再資源化できるのが強み。

同社は創業1966年と長い実績を誇る。500社以上の化学会社と契約し独自のリサイクルシステムを構築、引き取り先にリサイクル製品として戻すクローズリサイクルのほか、独自ブランド「リップラギ」として製品化している。今期は売上高30億円を見込む。現在は本社工場(大阪府貝塚市)、四国工場(香

## 化学熟知する視点に強み

## 静岡を増強、東日本拠点に

川県三豊市(静岡工場(磐田市))で月約1000tの使用済み容器を回収、再資源化する。  
注目はそのネットワーク。P-EやP-P以外の使用済み製品についてもリサイクル処理先を紹介、ワンストップでの取り組みも果たす。サステナビリティ経営が求められる近年、同社の取り組みへの関心も高まり「EV向けLiBメーカーや投資事業会社などからも評価されている」(川瀬幸久社長)という。引き合いも増えており、さらなる体制の充実も図っている。  
本社工場では洗净力を上げ、再資源化の品質向上を図ったほか、静岡工場では今年から洗净工程を増強、一部未洗净容器の処理も開始、受け入れ体制を強化。併せてペレット化能力も倍増し「今後はさらに設備増強し、製品化にも力を入れていく」  
(同)方針で、将来は本社工場に匹敵する拠点として、東日本地区の顧客ニーズに応えていく。  
今後は輸入品にも注目し、海外製品メーカーや輸入商社、港湾荷役、小分け会社とのネットワークにも力を入れていく。